

事務事業評価シート 平成 29 年度事後評価・決算

平成 31 年 2 月 21 日時点

事務事業名			コード	80600	施設維持管理費	予算科目	会計	款	項	目	担当班	工務班
基本施策			21		良好な生活環境の形成	根拠法令	下水道法、水質汚濁防止法	2	1	1	事業種別 ☒ 主な事業 ☒ 国土強靱化地域計画 ☐ 新市建設計画 ☐ 定住自立圏構想 ☐ 主要事業	
施策の展開			39		住み良い住環境の確保	戦略事業	186	公共下水道の整備				
施策の展開						戦略事業						

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 12 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで	●生活排水(汚水)を一括処理する下水道施設(浄化センター)を24時間連続で運転しており、機械(送風機、攪拌機など)の維持管理を行う。 ●主に ①旭駅周辺202haの約1,800世帯(事業所等を含む)から出る汚水を浄化センターで一括処理する。②処理に伴い発生する汚泥はセメントの原料としてリサイクルするため外部委託し処理する。汚水は機械(送風機、攪拌機など)により浄化・消毒したうえで、新川へ放流する。 ●平成25年度は、汚水処理施設の長寿命化計画の策定に向けた基礎調査を実施。
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化
・生活レベルの向上や住宅開発等に伴い、生活雑排水が増加し、河川の水質悪化の改善が課題となり、水質改善を図るため公共下水道を整備することとした。平成12年3月31日に公共下水道を供用開始し、浄化センターでは汚水の浄化処理を行っている。	・公共下水道の使用量の増加に伴い、処理水量も増加している。 ・処理水量の増加や施設の老朽化によって、維持管理費及び修繕費は増加している。
⑤ 事務事業に対する住民からの意見等	
・公共下水道事業のコストは高いという意見がある。 ・浄化センター維持管理費のコスト縮減が求められている。	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(29年度の決算)		単位:千円
1.委託料(運転・汚泥処理)	87,294	運転業務委託料、汚泥等運搬処理業務委託料
2.委託料(その他)	6,467	自家用電気工作物保守、清掃等委託料ほか
3.修繕料	7,323	ポンプ等修繕費
4.需用費(修繕料を除く)	18,097	消耗品、燃料費、光熱水費
5.その他	3,415	役務費、工事請負費ほか
② 特定財源の内訳(29年度の決算)		単位:千円
1.国庫支出金	0	
2.都道府県支出金	0	
3.地方債	0	
4.その他	101,667	下水道使用料

		単位	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(予算)
事業費	1.委託料(運転・汚泥処理)	千円	86,797	87,721	87,868	87,294	90,396
	2.委託料(その他)	千円	5,590	5,378	5,394	6,467	5,321
	3.修繕料	千円	10,347	8,505	21,973	7,323	8,007
	4.需用費(修繕料を除く)	千円	21,553	19,159	16,428	18,097	20,417
	5.その他	千円	2,345	1,766	5,428	3,415	10,143
事業費計(A)	事業費計(A)	千円	126,632	122,529	137,091	122,596	134,284
	1.国庫支出金	千円					
	2.都道府県支出金	千円					
	3.地方債	千円					
	4.その他	千円	93,345	92,263	95,041	101,667	104,623
一般財源	5.一般財源	千円	33,287	30,266	42,050	20,929	29,661

前年度増減理由	修繕料の減
---------	-------

従事職員数	常時 1.5 人	最大 1.5 人	×	225 日	=	延べ 338 人
-------	----------	----------	---	-------	---	----------

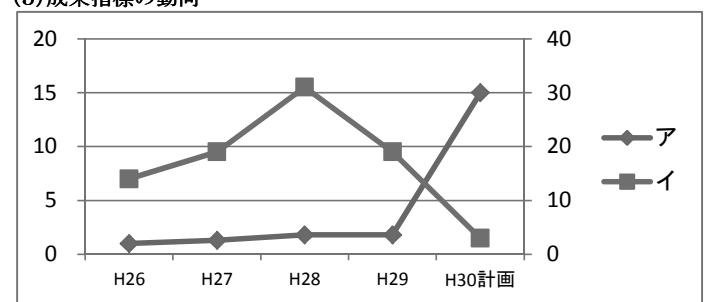
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	⇒	③ 活動指標名	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	29年度実績(29年度に行った主な活動) ア 浄化センター設備の修繕(管理本館、汚泥処理棟、自家発電機のバッテリー交換等を実施) イ 汚水処理量 682,080m ³ /年、汚泥搬出量 522t/年		ア 設備等の修繕回数	回	9	9	13	10	10
			イ 処理水量 m ³ /年	m ³	634,120	642,080	665,494	682,080	693,500
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	⇒	④ 成果指標名	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	対象意図 ・公共下水道供用区域(A=202ha)内の住民 ・汚水をすみやかに排除することで、良好な生活環境を得ることができる。 対象意図 ・浄化センター施設 ・適切に維持管理される。		ア 水質検査結果(浄化センターから新川へ放流する水のBOD)	mg/l	1.0	1.3	1.8	1.8	15.0
			イ 浄化センター施設の故障件数	件	14	19	31	19	3

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果		成果向上余地		
施策貢献度	大きい			
	普通		⑤	
	小さい			
② コスト削減優先度評価結果		コスト比率		
評価結果	①			
	②			
	③			
④⑤	⑥			(11)
	⑦⑧			
	⑨			

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

評価内容	① 進捗状況	☐ 完了 ☒ 順調 ☐ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難				
	【コメント】 (停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)					
	② 成果の状況	成果指標ア	成果指標イ	数値減=成果向上	☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下 ☐ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下	比較
	【コメント】 (低下の場合、その理由)					成果動向
						ア 0.0 0.3 0.5 0.0 13.2
						イ 0 5 12 Δ12 Δ16
③ 今年度取組事項(30年度に取り組む主な事項について記載)	時期	内容		今後の方向性	☐ 拡大 ☒ 現状維持 ☐ 見直し ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ その他()	